

# FUJITSU Software ServerView Suite V11.16.06

## 更新履歴

版数	変更内容	日付
初版	新規作成	2016 年 6 月 10 日
2 版	対象 OS を追加しました (RHEL6.8)。	2016 年 6 月 28 日
3 版	対象 OS を追加しました (SLES11/12)。 これに伴い、留意事項を修正しました。	2016 年 8 月 9 日
4 版	対象機種を追加しました。 ServerView Operations Manager の留意事項を追加しました。 ServerView Installation Manager の留意事項を追加しました。	2016 年 9 月 20 日
5 版	ServerView Operations Manager の留意事項を修正しました。	2016 年 10 月 11 日

## 目次

FUJITSU Software ServerView Suite V11.16.06.....	1
1 ServerView Suite のサポートポリシーについて .....	2
2 対象 OS および対象機種 .....	3
3 格納ソフトウェア .....	6
4 SVS V11.16.06 での変更点 .....	6
5 媒体 .....	8
6 留意事項 .....	9
6.1 ServerView Operations Manager の留意事項 .....	9
6.2 ServerView Agents の留意事項 .....	24
6.3 ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項 .....	32
6.4 ServerView Update Manager Express の留意事項 .....	36
6.5 ServerView Deployment Manager (SVDm) の留意事項 .....	37
6.6 ServerView Virtual-IO Manager (VIOM) の留意事項 .....	37
6.7 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の留意事項 .....	38
6.8 ServerView RAID Manager の留意事項 .....	39
6.9 PrimeCollect の留意事項 .....	41
6.10 Scripting Toolkit の留意事項 .....	42
6.11 ServerView Update Agent の留意事項 .....	43
6.12 ServerView Status Monitor の留意事項 .....	44
6.13 定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知を行う方法の留意事項 .....	44
6.14 Java に関する留意事項 .....	45
6.15 ServerView Storage Manager についての留意事項 .....	48

## 1 ServerView Suite のサポートポリシーについて

ServerView Suite は、インストール対象のハードウェア(\*1)についての、有効な保証書がある場合、もしくは SupportDesk 契約が締結されている場合に、以下のサポートを実施いたします。

サービス内容		保証書期間中 (SDK 契約なし)	SDK 契約あり
QA/トラブルの受付・回答 (*2)		○	○
修正パッチの提供 (*3)		—	—
情報提供 (SDK-Web)	事例検索	—	○
	お問い合わせ履歴	—	○

- (\*1) 保守期限内の FUJITSU Server PRIMERGY(以下、PRIMERGY)、もしくは FUJITSU Server PRIMEQUEST(以下、PRIMEQUEST)に限ります。

PRIMERGY のモデルごとの保守期限は以下で公開されています。

「FUJITSU Server PRIMERGY 製品情報ナビ」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/product-navi/>

PRIMEQUEST のモデルごとの保守期限は各モデルのシステム構成図で公開されています。

「基幹 IA サーバ FUJITSU Server PRIMEQUEST (プライムクエスト)」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/>

- (\*2) インストール対象の OS が、富士通のサポート期間内である場合に、QA/トラブルの受付・回答を実施いたします。尚、各 OS ベンダーのサポート期間終了後は、ナレッジベースの範囲で回答いたします。

- (\*3) ServerView Suite に対する修正パッチの提供はありません。不具合を修正する場合には、不具合が確認された時点以降に公開されるバージョンで修正を行います。

バージョンアップ版は以下のページから無償で入手することができます。

「FUJITSU Server PRIMERGY ダウンロード」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

「PRIMEQUEST > ダウンロード」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/download/>

障害調査を行った結果、不具合が確認された場合、不具合が修正されたバージョンもしくは修正される予定のバージョンについての情報、もしくは回避方法をご案内します。

(バージョンは複数の数字の組合せで表されます。(例:11.14.11、5.0.1.0))

## 2 対象 OS および対象機種

以下は、格納する ServerView 製品がサポートする OS です。

			Operations Manager	Agents	Agentless Service (*1)	Installation Manager	Virtual-IO Manager	RAID Manager	Update Agent	Storage Manager
			7.11.12	7.20.22	7.20.20	11.16.06	3.7.03	6.3.6	7.10.00	6.0.0.11
Windows										
	2008 (SP2)	Foundation	○			○		○	○	
		Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
		Enterprise	○	○	○	○	○	○	○	○
		Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	
		Web	○	○	○	○		○	○	○
		Hyper-V				○				
	SBS 2008 (SP2)	Standard	○			○			○	
		Premium	○			○			○	
	EBS 2008	Standard	○			○			○	
		Premium	○			○			○	
	2008 R2 (SP1)	Foundation	○	○	○	○		○	○	
		Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
		Enterprise	○	○	○	○	○	○	○	○
		Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	
		Web	○	○	○	○	○	○	○	○
		Hyper-V				○				
		HPC	○	○	○	○		○	○	
	SBS 2011	Standard	○			○				
		Essentials	○	○	○	○		○	○	
	2012	Foundation	○	○	○	○	○	○	○	
		Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
		Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	○
		Essentials		○	○	○		○	○	
		Hyper-V				○				
		Storage				○				
	2012 R2	Foundation	○	○	○	○	○	○	○	
		Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
		Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	○
		Essentials		○	○	○		○	○	
		Hyper-V				○				
		Storage	○	○	○	○		○	○	

(\*1) Agentless Service は 64bit のみサポートします。

			Operations Manager	Agents	Agentless Service (*1)	Installation Manager	Virtual-IO Manager	RAID Manager	Update Agent	Storage Manager	
			7.11-12	7.20-24	7.20-24	11.16.06	3.7.03	6.3-6	7.10-02	6.0.0-11	
Red Hat Enterprise Linux											
	5.4~5.8									○	
	5.9							○		○	
	5.10			○			○	○	○	○	
	5.11			○		○	○	○	○	○	
	6.0~6.3									○	
	6.4								○	○	
	6.5						○	○	○	○	
	6.6		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		HPC				○					
	6.7		○	○	○	○	○	○	○		
		HPC				○					
	6.8		○	○	○	○	○	○	○		
		HPC				○					
	7.0		○				○	○	○	○	
	7.1		○	○	○	○	○	○	○		
		HPC				○					
	7.2		○	○	○	○	○	○	○		
		HPC				○					
SUSE Linux Enterprise Server											
	11	SP3		○	○			○			
		SP4		○	○	○ (*2)		○			
	12			○	○	○ (*2)		○			
		SP1		○	○	○ (*2)		○			
VMware ESXi											
	5.0	Update2				○					
		Update3				○					
	5.1	Update1						○			
		Update2						○			
		Update3				○		○			
	5.5	Update1						○			
		Update2						○			
		Update3				○		○			
	6.0					○		○			
		Update1				○		○			
Update2					○		○				

(\*1) Agentless Service は 64bit のみサポートします。

(\*2) OS の言語設定は英語のみサポートします。

以下は ServerView Installation Manager (以下、SVIM)がサポートする機種です。

BX920 S3 / S4、BX924 S3 / S4、BX2560 M1 / M2、BX2580 M1 / M2

CX250 S2、CX270 S2、CX1640 M1、CX2550 M1 / M2、CX2570 M1 / M2

MX130 S2

RX100 S8、RX200 S7 / S8、RX300 S7 / S8、RX350 S7 / S8、RX500 S7、RX600 S6

RX1330 M1 / M2、RX2520 M1、RX2530 M1 / M2、RX2540 M1 / M2、RX2560 M1 / M2

RX4770 M1 / M2 / M3

TX140 S2、TX150 S8、TX200 S7、TX300 S8

TX1310 M1、TX1320 M1 / M2、TX1330 M1 / M2、TX2540 M1、TX2560 M1 / M2

OS と機種の組合せがサポートされるかは、下記の URL でご確認ください。

PRIMERGY の OS 対応

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/primergy-os/>

VMware ESXi がサポートする機種

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/pdf/esx-s.pdf>

### 3 格納ソフトウェア

	Windows	格納先		Linux	格納先	
		DVD1	DVD2		DVD1	DVD2
ServerView Agents	V7.20.22	○	○	V7.20-24	○	○
ServerView Agentless Service	V7.20.20	○	○	V7.20-24	○	○
ServerView Update Agent	V7.10.00	○	○	V7.10-02	○	○
ServerView Operations Manager/Update Manager	V7.11.12	○	○	V7.11-12	○	○
ServerView Update Manager Express	-	-	-	-	-	-
ServerView RAID Manager	V6.3.6	○	○	V6.3-6	○	○
DSNAP	V3.0L70	○	○	-	-	-
ソフトウェアサポートガイド	V2.0L80	○	○	-	-	-
富士通 Linux サポートパッケージ	-	-	-	1.7-0	○	○
HRM / server	8.0.0	○	○	8.0.0	○	○
ServerView Installation Manager	V11.16.06	○	-	V11.16.06	○	-
ServerView Deployment Manager	-	-	-	-	-	-
ServerView Virtual-IO Manager	V3.7.03	○	○	V3.7.03	○	○
Scripting Toolkit	未サポート	-	-	未サポート	-	-
ServerView Storage Manager	V6.0.0-11	-	○	V6.0.0-11	-	○
PrimeUp	V1.17.03	-	○	-	-	-
Java Runtime Environment	1.8.0-65	○	○	1.8.0-65	○	○

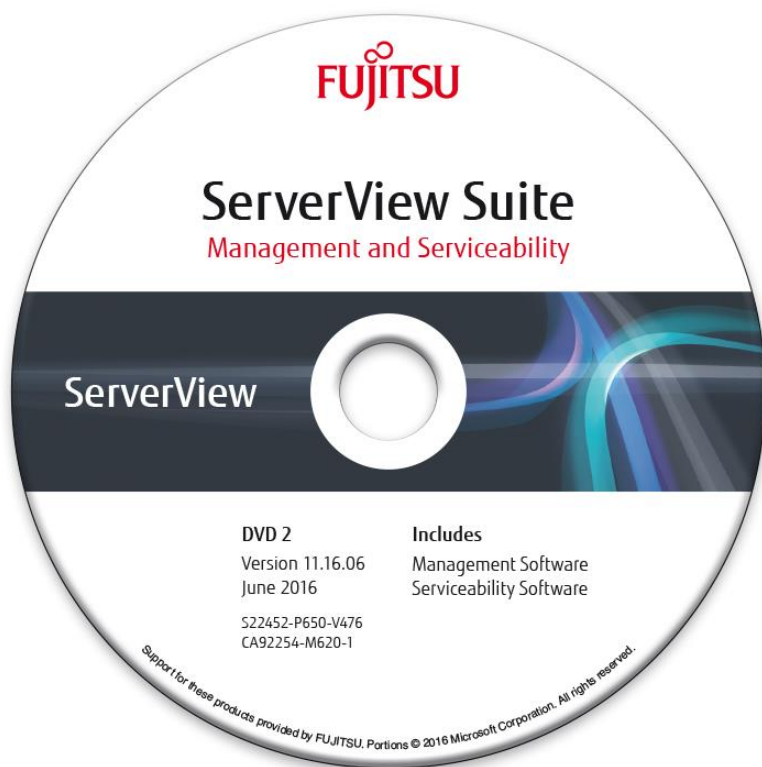
### 4 SVS V11.16.06 での変更点

	変更点
ServerView Agents / ServerView Agentless Service	<p>3 版 次の留意事項を修正しました。 (4) インストールモジュールの選択 次の留意事項を削除しました。 (3) インストール時に出力されるメッセージ (7) Red Hat Enterprise Linux 7(RHEL 7) 上で使用する際の留意 (8) Red Hat Enterprise Linux 上で iRMC の FirmWare をアップデートする際の留意</p>
ServerView Operations Manager	<p>3 版 次の留意事項を修正しました。 (8) マニュアルの正誤 (23) SVOM for Windows の変更インストールを行う場合の留意</p> <p>4 版 次の留意事項を追加しました。 (25) 64bit Linux OS 上に ServerView Operations Manager をインストールする際の留意</p> <p>5 版 次の留意事項を追加しました。 (25) 64bit Linux OS 上に ServerView Operations Manager をインストールする際の留意</p>
ServerView Installation Manager	<p>3 版 次の留意事項を追加しました。</p>

	(12) SUSE Linux Enterprise Server のサポート対象 4 版 (13) RX1330 M2、TX1320 M2、TX1330 M2 に Windows Server 2008 R2 をインストールする場合
ServerView RAID Manager	3 版 次の留意事項を修正しました。 (3) SanDisk 製の PCIe SSD を監視する場合
ServerView Virtual-IO Manager	
ServerView Update Agent	
Java Runtime Environment	
ServerView Status Monitor	
ServerView Storage Manager	

## 5 媒体

### 添付ソフトウェア/ドライバ





## 6 留意事項

### 6.1 ServerView Operations Manager の留意事項

#### (1) 前バージョンからの主な変更点

Windows 版 ServerView Operations Manager V7.11.09

Linux 版 ServerView Operations Manager V7.11.09 からの主な変更点です。

- ・新機種をサポートしました。(Windows 版 / Linux 版)

RX2560 M2 / RX2530 M2 / RX2540 M2 / BX2560 M2 / BX2580 M2 / CX2570 M2 / CX2550 M2 / TX2560 M2

- ・ RHEL7.2 に対応しました。(Linux 版)
- ・ OS の 8009 番ポートの使用を廃止しました。(Windows 版 / Linux 版)

#### (2) ServerView Operations Manager クイック導入ガイド

本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager を Windows 上で使用するための、基本的な設定をまとめた「ServerView Operations Manager クイック導入ガイド」が、ServerView Suite DVD 2 の以下のフォルダに格納されています。

<DVD ドライブ>:\SVSLocalTools\Japanese\Svmanage\Manual

ServerView Operations Manager のインストール前及びインストール時の参考資料として参照ください。尚このガイドは、Windows 環境にデフォルト設定でのインストールを行うことを前提に説明されています。Linux 環境にインストールする場合や、任意で設定の変更を行う場合など、その他詳細な情報につきましては、ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されているマニュアルを参照願います。

#### (3) 他プログラムとの連携ツール

本 ServerView Suite DVD 2 内の下記のフォルダに、Systemwalker や信号灯と連携するツールなどが格納されています。必要に応じて適宜ご活用ください。各ツールの詳細は、ツールごとのフォルダに格納されている Readme.txt をご覧ください。

格納フォルダ:

<DVD ドライブ>:\SVSLocalTools\Japanese\Svmanage\Tools

ツール(カッコ内は格納フォルダ名):

- ・Systemwalker 連携用ファイル (SystemWalker)
- ・信号灯制御プログラム連携ツール (PHN\_3FB)
- ・ServerView トラップ転送プログラム for Linux (TrapServer)
- ・firewall 設定ツール for VMware (VMware)

#### (4) PRIMERGY CX400 の監視

ServerView Operations Manager を使用して、PRIMERGY CX400 S1/S2 の監視を行う際、他の PRIMERGY に対して動作の異なる点、及び使用できない機能があります。

詳細は以下に掲載しております、「ServerView Operations Manager と Agents による PRIMERGY CX400 のサーバ監視の留意事項」を参照願います。

- ・PRIMERGY CX400 S1 マニュアル

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-cx400s1-201203.html>

- ・PRIMERGY CX400 S2 マニュアル

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-cx400s2-201309.html>

#### (5) Microsoft Internet Explorer のサポートバージョン

Microsoft Internet Explorer を使って、ServerView Operations Manager にアクセスする場合には、バージョン 8、9、10 もしくは 11 をお使いください。(推奨: バージョン 9、10 もしくは 11)

Microsoft Internet Explorer のバージョン 7 やそれ以前のバージョンを使って、本 DVD に格納されているバージョンの

ServerView Operations Manager にアクセスすることはできません(非サポート)。

現在 Microsoft Internet Explorer のバージョン 7 以前をお使いで、バージョン 8、9、10 もしくは 11 にアップデートする場合、Windows Update などを使ってアップデート行ってください。本 DVD には Microsoft Internet Explorer のアップデートモジュールは格納されていません。

注意:

Microsoft Internet Explorer バージョン 8 をお使いの環境で、ブラウザに関する問題が発生した場合、調査、回避策提示といった対応ができない可能性があります。ご了承ください。  
その場合、使用するブラウザの変更をお願いさせていただきます。

ブラウザは使用する OS がサポートするバージョンをご使用ください。

上記の ServerView Operations Manager がサポートするバージョンであっても OS が未サポートの環境では動作は保障されません。

#### (6) JRE をアップデート、アンインストールする際の留意

Windows 環境において本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager がインストールされた状態で、JRE(Java Runtime Environment)をアップデート、アンインストールする場合、以下の手順で行ってください。

- 1) ServerView Operations Manager のサービスを停止します。  
停止:
  1. ServerView Download Service
  2. ServerView Services
  3. ServerView Application Server
  4. ServerView Apache Directory Server (\*)
- 2) 古い版数の JRE をアンインストールします。(任意)
- 3) 新しい版数の JRE をインストールします。
- 4) 以下のファイルを実行し、アップデートを行ってください。  
ファイルパス:  
    <SVOM インストールディレクトリ>%tomee%bin%service.bat update
- 5) ServerView Operations Manager のサービスを開始します。  
開始:
  1. ServerView Apache Directory Server (\*)
  2. ServerView Application Server
  3. ServerView Services
  4. ServerView Download Service

\*:インストール手順により存在しない場合があります。

#### (7) IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した際の操作

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager をインストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムと機能」で、「Fujitsu Software ServerView Application Server」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。

変更インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。その後同様に「プログラムと

機能」で「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックし、メッセージに従って操作を行います。

なお、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の ApacheDS (デフォルト)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「ApacheDS をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。

## (8) マニュアルの正誤

ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されている、以下のマニュアルの記載に誤りがあります。

1) マニュアル名: sv-install-linux-jp.pdf (ServerView Operations Manager 7.02)

ページ:31

誤

ポート	使用対象
3170	https( ファイアウォールのポートのロックを解除する必要があります)
:	:
:	:
1325、9999 一部のポートが追加で システムコンポーネン トの動的割り当てに使用 されます。	JBoss( 内部ソケット接続にのみ使用)

正

ポート	使用対象
3170	https( ファイアウォールのポートのロックを解除する必要があります)
:	:
:	:
1325、9999 この他システムが動的 に割り当てるポートを 複数使用します。	JBoss( 内部ソケット接続にのみ使用)

ページ:38

誤

RHEL 5.9 32 ビット
:
• net-snmp
• openssl
• unixODBC
• unixODBC-libs

正

RHEL 5.9 32 ビット

:

- net-snmp
- openldap-clients.i686
- openssl
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- unixODBC
- unixODBC-libs

誤

RHEL 5.9 64 ビット

:

- net-snmp.x86\_64
- openssl.i686
- unixODBC.i386
- unixODBC-libs.i386

正

RHEL 5.9 64 ビット

:

- net-snmp.x86\_64
- openldap-clients.x86\_64
- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- unixODBC.i386
- unixODBC-libs.i386

ページ: 40

誤

RHEL 6.4 32 ビット

:

- openldap
- openssl
- unixODBC
- zlib

正

#### RHEL 6.4 32 ビット

- :
- openldap
- openldap-clients.i686
- openssl
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils
- unixODBC
- zlib

ページ: 41

誤

#### RHEL 6.4 64 ビット

- :
- openldap.i686
- openssl.i686
- unixODBC.i686
- zlib.i686

正

#### RHEL 6.4 64 ビット

- :
- openldap.i686
- openldap-clients.x86\_64
- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils
- unixODBC.i686
- zlib.i686

ページ: 42

誤

#### RHEL 7.0 64 ビット

- :
- xz-libs.i686
- zlib.i686
- 特殊機能の前提条件

正

RHEL 7.0 64 ビット

- :
- xz-libs.i686
- zlib.i686
- unzip
- net-tools
- 特殊機能の前提条件

2) マニュアル名:sv-install-linux-jp.pdf (ServerView Operations Manager 7.11)

ページ:38

誤

RHEL 5.11 32 ビット

- :
- openssl
- unixODBC
- unixODBC-libs

正

RHEL 5.11 32 ビット

- :
- openssl
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- unixODBC
- unixODBC-libs

ページ:39

誤

RHEL 5.11 64 ビット

- :
- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-Socket-SSL

正

RHEL 5.11 64 ビット

- :
- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL

ページ:40

誤

RHEL 6.4 32 ビット

:

- openssl
- unixODBC
- zlib

正

RHEL 6.4 32 ビット

:

- openssl
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils
- unixODBC
- zlib

ページ:41

誤

RHEL 6.4 64 ビット

:

- openssl.i686
- unixODBC.i686
- zlib.i686

正

RHEL 6.4 64 ビット

:

- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils
- unixODBC.i686
- zlib.i686

ページ:42

誤

RHEL 6.5 32 ビット

:

- openssl
- policycoreutils-python
- unixODBC

正

RHEL 6.5 32 ビット

:

- openssl
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils-python
- unixODBC

ページ:43

誤

RHEL 6.5 64 ビット

:

- openssl.i686
- policycoreutils-python
- unixODBC.i686

正

RHEL 6.5 64 ビット

:

- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils-python
- unixODBC.i686

ページ:44

誤

RHEL 6.6 64 ビット

:

- openssl.i686
- policycoreutils-python
- unixODBC.i686

正

RHEL 6.6 64 ビット

:

- openssl.i686
- perl-Net-SSLeay
- perl-IO-Socket-SSL
- policycoreutils-python
- unixODBC.i686



誤

RHEL 7.0/RHEL7.1 64 ビット  
:  
• xz-libs.i686  
• zlib.i686  
• 特殊機能の前提条件

正

RHEL 7.0/RHEL7.1 64 ビット  
:  
• xz-libs.i686  
• zlib.i686  
• unzip  
• net-tools  
• 特殊機能の前提条件

3) マニュアル名:sv-performance-jp.pdf (ServerView Performance Manager)

誤

<ServerView のインストールディレクトリ>¥  
ServerViewServices¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥< サーバ名>

正

<ServerView のインストールディレクトリ>¥  
¥svom¥data¥ServerView¥CSVFiles¥< サーバ名>

誤

- Windows の場合  
- ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) の場合  
[システムドライブ] ¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥  
ServerView¥ServerView Services¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥  
「サーバ名」¥  
- IIS の場合  
[システムドライブ] ¥inetpub¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥  
「サーバ名」¥  
- Linux の場合  
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/html/ServerView/CSVFiles/「サーバ名」

正

- Windows の場合  
[システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥  
svom¥data¥ServerView¥CSVFiles¥「サーバ名」¥
- Linux の場合  
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/data/ServerView/CSVFiles/「サーバ名」

4) マニュアル名:sv-operations-mgr-jp.pdf (ServerView Operations Manager 7.11)  
ページ:135

誤

- 認証方法「Basic」の有効化と、Windows Remote Manager Web サービスの値「Negotiate/Kerberos」の無効化:  
winrm set winrm/config/service/auth @{Basic=  
"true";Kerberos="false";Negotiate="false"}winrm set  
winrm/config/service @{AllowUnencrypted="true"}

正

- 認証方法「Basic」の有効化と、Windows Remote Manager Web サービスの値「Negotiate/Kerberos」の無効化:  
winrm set winrm/config/service @{AllowUnencrypted="true"}  
winrm set winrm/config/service/auth @{Basic="true";Kerberos="false";Negotiate="false"}

5) マニュアル名:sv-install-windows-jp.pdf (ServerView Operations Manager 7.11)  
ページ:29

誤

アップグレードインストールは、既存の Operations Manager  
バージョン 6.00.06 以降でのみサポートされています。  
バージョン 6.00.06 未満のすべての Operations Manager をあ  
らかじめバージョン 6.00.06 にアップグレードする必要があります。

正

アップグレードインストールは、既存の Operations Manager  
バージョン 7.00.05 以降でのみサポートされています。  
バージョン 7.00.05 未満のすべての Operations Manager をあ  
らかじめバージョン 7.00.05 にアップグレードする必要があります。

ページ:152

誤

No.	チェック項目	設定
1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 6.00.06 以降からのみ可能です。

正

No.	チェック項目	設定
1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 7.00.05 以降からのみ可能です。

ページ:181

誤

- 最新バージョンへのアップデートインストールは、Operations Manager バージョン 6.00.06 からのみサポートされています。以前のバージョンの JBoss が自動的にアンインストールされ、新しいバージョンがインストールされます。証明書とユーザ設定は引き継がれます。その後、JBoss を使用するすべての ServerView Suite アプリケーションもアップグレードする必要があります。

正

- 最新バージョンへのアップデートインストールは、Operations Manager バージョン 7.00.05 からのみサポートされています。以前のバージョンの JBoss が自動的にアンインストールされ、新しいバージョンがインストールされます。証明書とユーザ設定は引き継がれます。その後、JBoss を使用するすべての ServerView Suite アプリケーションもアップグレードする必要があります。

6) マニュアル名:sm-security-jp.pdf (ホワイトペーパー セキュアな PRIMERGY サーバ管理エンタープライズセキュリティ)

ページ:38

誤

- (A) Operations Manager バージョン 7.10 以前 :
- (1) テキストエディタで、Windows では  
<ServerView Suite>%jboss%standalone%configuration%standalone.xml、Linux では /opt/fujitsu/ServerViewSuite/jboss/standalone/configuration/standalone.xml を開きます。

正

- (A) Operations Manager バージョン 7.10 以前 :
- (1) テキストエディタで、Windows では  
<ServerView Suite>%jboss%standalone%configuration%standalone.xml.orig、  
Linux では /opt/fujitsu/ServerViewSuite/jboss/standalone/configuration/standalone.xml.sav を開きます。

#### (9) ServerView Operations Manager による iRMC 監視を行なう際の留意

本 DVD に収録されている ServerView Operations Manager では PRIMERGY システムに搭載された iRMC S4 を監視対象として登録することができます。

監視を行なうためには ServerView Operations Manager による監視をサポートした iRMC S4 ファームウェアの適用が必

要です。

iRMC7.65F 以降でサポートしています。

#### (10) V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境に本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager をインストールすることはできません。ServerView Operations Manager をインストールする場合は、事前に ServerView Agents を V4.91 以降(推奨: V5.00 以降)にアップデートしてください。

#### (11) アップデートインストールする際の留意

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager は、V7.00.05 以降からのみ、アップデートインストールを行うことができます。

該当版数以前のバージョンからアップデートを行う場合は、以下のどちらかを実施してください。

- ・ インストールされている ServerView Operations Manager を一度アンインストール後、本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager をインストール  
※ アンインストール前に ServerView Operations Manager の設定情報を控えてください。  
新規でインストールを行ったあと、再度手動で設定を行っていただく必要があります。
- ・ 一度アップデート可能な版数の ServerView Operations Manager にアップデート後、本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager にアップデートインストール

Windows 環境の場合、インストールされている Windows インストーラのバージョンが V4.0 の場合、以前のバージョンの ServerView Operations Manager から、本 DVD に格納されているバージョンへアップデートインストールを行うことはできません。

インストールされている Windows インストーラのバージョンは以下の方法で確認することができます。

1. 任意の方法でコマンドプロンプトを開きます。
2. 以下のように入力して、実行します。  
> msixexec
3. 「Windows インストーラ」というタイトルの画面が表示されます。1 行目にバージョンが記載されています。

尚、下記 OS では、Windows インストーラのバージョン V4.0 がインストールされている可能性があります。

・Windows 2008 (R2 なし) SP2 未適用

上記以外の環境では、Windows インストーラ V4.0 はインストールされません。

現在 Windows インストーラ V4.0 をお使いで、V4.5 にアップデートする場合、Windows Update などを使ってアップデート行ってください。本 DVD には Windows インストーラのアップデートモジュールは格納されていません。

Linux 環境の場合、アップデート前に採取されていた ServerView データベースのバックアップデータは、アップデート後は以下のフォルダに格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/last\_backup

#### (12) ServerView Installation Manager を使用して ServerView Operations Manager をインストールする際の留意

ServerView Operations Manager のインストール中に、Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストールが途中で停止する場合があります。

以下の条件を満たす場合に発生する可能性があります。

- ・ ServerView Installation Manager で Windows Server 2012 をインストールした環境
- ・ インストール後 ServerView Installation Manager の指示以外で OS の再起動を実施していない
- ・ OS にログイン後、おおよそ 1 時間以上経過してから ServerView Operations Manager のインストールを開始
- ・ ServerView Operations Manager と同時に Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストールを行っている

インストールが途中で停止してしまった場合は OS の再起動を実施し、再度 ServerView Operations Manager のインストールを実行してください。

※インストールが途中で停止した場合、[コントロールパネル] – [プログラムと機能]に、"Microsoft SQL Server 2008 R2 Setup(日本語)"が表示され、Microsoft SQL Server 2008 R2 Express 本体がインストールされていない状態になります。

### (13) アップデートマネージャのリポジトリデータインポートのため、DVD をマウントする際の留意

RedHat Enterprise Linux において、ServerView Suite Update DVD のパスをリポジトリデータのインポート元として指定した際、適切なリード権限が設定されていないことにより、"インポート元のパス'xxxxx'がありません"とのエラーメッセージが表示されることがあります。

これは、"svuser"のリード権限が、DVD のマウントポイントおよびその上位のディレクトリについて設定されていないため発生します。

この場合、一旦 DVD のアンマウントを実施後、以下のいずれかのコマンドにより DVD のマウントを実施してください。

- mount -t iso9660 -o ro,users,uid=svuser (デバイス名) (マウントポイント)

コマンド例: mount -t iso9660 -o ro,users,uid=svuser /dev/dvd /mnt/dvd

- mount -t udf -o ro,mode=555,nodev (デバイス名) (マウントポイント)

コマンド例: mount -t udf -o ro,mode=555,nodev /dev/dvd /mnt/dvd

### (14) Internet Explorer 10 の環境にて SVOM 画面が白く表示される

Internet Explorer 10 を使用すると ServerView Operation Manager の画面が白く表示される場合があります。

以下のような操作をした際に ServerView Operation Manager の画面が白く表示されます。

ServerView Operation Manager にログイン後、任意の画面を開きます。次に別の任意の画面を開きます。

二つ目に開いた画面を閉じると、一つ目に開いた画面が白い画面となります。

白くなった画面を最小化、最大化を行うことで画面表示は元に戻ります。

### (15) アラーム設定の各画面が読み込み中のまま正常に表示されない

以下に該当する場合、アラーム設定の各画面へアクセスを行うと、画面が読み込み中のまま表示できない場合があります。

- ・ Linux 環境にインストールされた Firefox をブラウザとして使用している、かつ
- ・ jre1.7u40 以降もしくは jdk1.7u40 以降をプラグインとして使用している。

アラーム設定を行う場合は、以下のいずれかを行って設定してください。

- ・ 一度、左の設定メニューから目的以外の項目を選択し、読み込んでいる最中に再度目的の項目を選択する。
- ・ Windows 端末のブラウザからアラーム設定を行う。

### (16) PRIMERGY BX920 S4 及び PRIMERGY BX924 S4 で使用する BIOS

PRIMERGY BX920 S4 及び PRIMERGY BX924 S4 の BIOS R1.7.0 は日本市場ではご利用できません。以下の「BIOS / ファームウェア」ページより該当機種の最新 BIOS をダウンロードし、ご利用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

### (17) iRMC Web-IF で保存した設定を"サーバの設定"でインポートする際の留意

iRMC Web-IF の"設定の保存"で保存した設定に"ユーザ設定"が含まれていない場合、SVOM の"サーバの設定"より同設定をインポートすると、iRMC のユーザ設定がクリアされます。

iRMC Web-IF で保存する際に"ユーザ設定"が含まれる状態で保存した設定をインポートするか、SVOM の"サーバの設定"-"iRMC ユーザ管理"で iRMC のユーザを再作成してください。

#### (18) SVOM で使用する Java について

SVOM をご使用いただくためには Java が必要となります。

Java は以下のシステムにインストールしていただく必要があります。

- (1) SVOM がインストールされたシステム上
- (2) ブラウザを使用して SVOM の画面を開くシステム上

本 DVD には SVOM V7.11 が収録されています。

SVOM V7.11 は上記(1)、(2)の環境において、Java バージョン 8 をご使用いただけます。

SVOM V7.02 以前の SVOM では上記(1)、(2) どちらの環境においても Java バージョン 8 をお使いいただくことはできません。

Java のバージョン 7 は公式サポート終了の案内が出ており、今後 Java の脆弱性等が発見された場合、修正がバージョン 8 のみに提供される場合がありますので SVOM をご使用する際にはご注意ください。

SVOM は Java を使用しますが、以下の方法でサーバの監視を行なうことで Java を使用しない監視が行なえます。

- ・ Web ブラウザを使用した System Monitor を使用する。  
ServerView Agents がインストールされた環境には System Monitor がインストールされています。  
V7.01 以降の ServerView Agents では Web ブラウザを使用した System Monitor を使用していただけます。
- ・ マネージメントコントローラ iRMC / MMB を使用する。  
PRIMERGY/PRIMEQUEST は マネージメントコントローラを内蔵しています。  
マネージメントコントローラの Web インターフェースからハードウェアの状態を確認することができます。  
使用方法については、それぞれのマニュアルをご確認ください。

#### (19) コンバージドファブリックスイッチの監視について

ServerView Operations Manager の監視対象としてコンバージドファブリックスイッチを登録することが可能です。

登録されたコンバージドファブリックスイッチはサーバリスト上に表示されますが、Fabric Manager がインストールされていない場合、リスト上のコンバージドファブリックスイッチをクリックしても詳細画面を開くことはできません。

Fabric Manager がインストールされていない環境でコンバージドファブリックスイッチを登録する場合は、サーバブラウザで手動でサーバタイプ "Switch" を選択し、登録してください。

#### (20) Red Hat Enterprise Linux 6.6(RHEL6.6)以降で使用する際の留意

Red Hat Enterprise Linux 6.6(RHEL6.6)以降で、Firefox(バージョン 31 以降)を使用して ServerView Operations Manager を起動させた場合、JAVA プラグインでクラッシュが発生し、その後以下のメッセージが表示され ServerView Operations Manager が正常に起動できません。

「ServerView Operations Manager の起動に失敗しました」

この場合、以下の手順を実施してください。

1. Firefox のツールバーより右端のメニューアイコンをクリックします。
2. 「設定」をクリックし「Firefox の設定」画面を開きます。
3. [セキュリティ]のパスワードの項目で「サイトのパスワードを保存する」のチェックを外し、「閉じる」ボタンを押します。
4. JAVA コントロールパネルを開きます。
5. [セキュリティ]タブで以下の設定を変更します。
  - JAVA 8 Update20 以降  
例外サイト・リストにないアプリケーションのセキュリティ・レベル  
「非常に高」から「高」に変更
  - JAVA 7  
セキュリティ・レベル

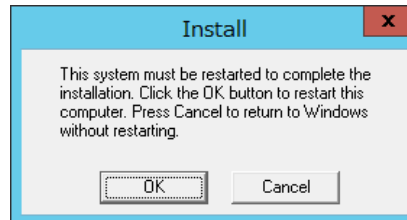
「高(最小限の推奨)」から「中」に変更

6. 変更後、「適用」ボタン、「OK」ボタンを押します。

**(21) SVOM for Windows V7.11.04 以降で変更インストールを行う際の留意**

Windows OS 上で ServerView Operations Manager V7.11.04 以降の変更インストールを行うと、以下のポップアップが表示される場合があります。

このポップアップが表示された場合は、「Cancel」ボタンを押して変更インストールを継続してください。



**(22) SVOM for Windows V7.10.10 以降でトラップのメール送信機能を使用する場合の留意**

Windows OS 上で ServerView Operations Manager V7.10.10 以降のトラップのメール送信機能を使用するためには、.Net Framework version 3.5 が必要です。

**(23) SVOM for Windows の変更インストールを行う場合の留意**

Windows OS 上で管理サーバの基本設定を変更するために変更インストールを行う場合、SVOM のインストールで使ったインストールモジュール内のファイルが必要となる場合があります。SVOM のインストールモジュールをハードディスク上にコピーの上、変更インストールを実施してください。

**(24) OS 再起動後に SVOM が正常に起動できない**

Windows 環境の SVOM V7.11 において、OS 再起動後に SVOM にログインすると、以下のメッセージが表示され SVOM が正常に起動できない場合があります。

HTTP error:path not allowed

この場合、以下の手順を実施することにより SVOM のサービスを再起動してください。

- 1) ServerView Operations Manager のサービスを停止します。
  1. ServerView Download Service
  2. ServerView Services
  3. ServerView Application Server
  4. ServerView Apache Directory Server (\*)
- 2) ServerView Operations Manager のサービスを開始します。
  1. ServerView Apache Directory Server (\*)
  2. ServerView Application Server
  3. ServerView Services
  4. ServerView Download Service

\*:インストール手順により存在しない場合があります。

**(25) 64bit Linux OS 上に ServerView Operations Manager をインストールする際の留意**

64bit Linux OS 上に、ServerView Operations Manager(SVOM) V7.11.12 と 64bit 版の ServerView Agents V7.10.22 以前はインストールできません。

64bit Linux OS 上に、SVOM V7.11.12 と ServerView Agents をインストールする必要がある場合は、ServerView Agents V7.20.10 以降を SVOM より先にインストールしてください。

## 6.2 ServerView Agents の留意事項

### Windows / Linux 環境共通

#### (1) クローニング(SystemcastWizard 等)を行う際の留意

ServerView Agents/ServerView Agentless Service を専用ツール等でクローニングすることは可能です。ただし、クローニング後に一部の機能が動作しない場合があります。以下の手順を実行してください。

1. ServerView Agents/ServerView Agentless Service を停止
2. Vmedb.DB を削除

Windows:

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\Agents\Server Control\Data\vmeDb.db

Linux:

/etc/srvmagt/VME/var/db/Vmedb.DB

3. ServerView Agents/ServerView Agentless Service を起動

### Windows 環境

#### (2) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に、本 DVD に格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨: V6.00)にアップデートしてください。

#### (3) ServerView Agents がインストールされた環境で Citrix XenDesktop を使用する際の留意

ServerView Agents for Windows と Citrix XenDesktop が同じサーバへインストールされていた場合、Citrix XenDesktop は起動することができません。

ServerView Agents for Windows をインストール後、以下の Microsoft の KB を適用する事により、Citrix XenDesktop が起動できるようになります。

<http://support.microsoft.com/kb/899965>

#### (4) System Monitor について

ServerView Agents V7.01 以降をインストールすると2種類の System Monitor がインストールされる場合があります。1 つは従来の ServerView Agents に含まれていた Java を使用する System Monitor (以下 Java 版 System Monitor) です。

もう一つは ServerView Agents V7.01 から追加された Web ブラウザを使用する System Monitor (以下 Web 版 System Monitor) です。

インストールされる System Monitor は使用する ServerView Agents の版数、インストール方法によって異なります。

- ServerView Agents V7.01 をインストールする場合、インストール方法に関係なく2種類の System Monitor がインストールされます。
- ServerView Agents V7.10 を新規インストールする場合、Web 版 System Monitor のみインストールされます。
- ServerView Agents V7.10 をアップグレードインストールする場合、アップグレード前の環境に Java 版 System Monitor がインストールされている場合は2種類、Java 版 System Monitor がインストールされていない環境では Web 版 System Monitor のみがインストールされます。
- ServerView Agents V7.20 以降をインストールする場合、Web 版 System Monitor のみインストールされます。

System Monitor の起動はスタートメニュー (Windows Server 2008 の場合)、もしくはアプリ (Windows Server 2012 の場合) のリストから System Monitor を選択してください。

2 種類の System Monitor がインストールされている場合、スタートメニュー、アプリの一覧内に2つ System Monitor が存在します。

一つは Web サイトのショートカットアイコンでもう一つは別のアイコンとなっています。



Web 版 System Monitor を起動する場合は Web サイトのショートカットアイコンの System Monitor を選択してください。

Java 版の System Monitor を起動する場合はもう一方の System Monitor を選択してください。

図: Windows Server 2012/R2 での System Monitor のショートカット

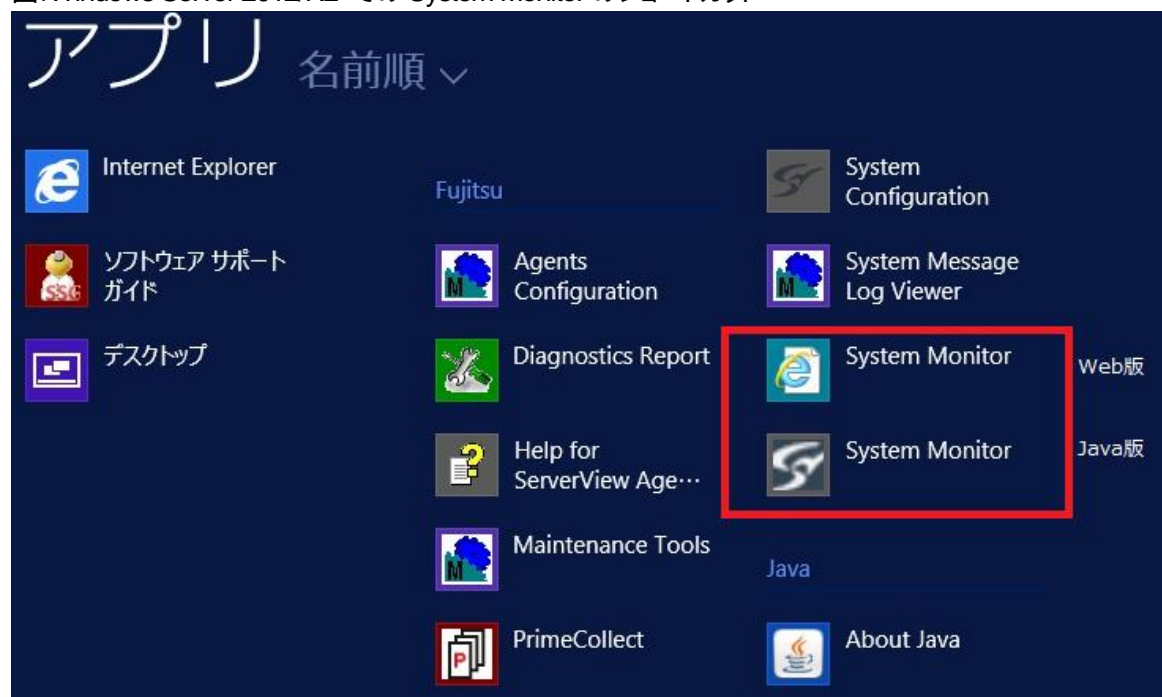
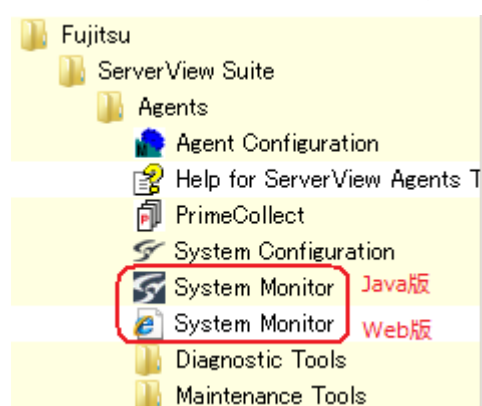


図: Windows Server 2008/R2 での System Monitor のショートカット



Web 版の System Monitor は版数によって使用可能なブラウザが異なります。

V7.01 : Internet Explorer 11 (IE11)以降をサポートしています。IE11 の互換表示を使用している場合は無効にしてください。

V7.10 以降 : Internet Explorer 8 (IE8)以降をサポートしています。

Web 版の System Monitor は Web ブラウザを使用してリモートでアクセスが可能です。

Web ブラウザ上で以下の URL にアクセスすることにより、Web 版の System Monitor を表示することができます。

<https://<ServerView Agents がインストールされているサーバの URL>:3172/ssm/desktop/>

## Linux / VMware 環境

### (1) OS アップデート時の留意

ServerView Agents は、OS のバージョンに依存します。本 DVD がサポートする OS からアップデートする場合、対応した ServerView Agents のバージョンを確認してください。インストール済みの ServerView Agents が対応していない場合は、OS をアップデートしたあと、ServerView Agents も必ずアップデートしてください。

### (2) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に 本 DVD に格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨: V6.00)にアップデートしてください。

### (3) インストールモジュールの選択

ServerView Agents V6.31 以降は 32bit 版と 64bit 版が存在します。

インストールする OS、使用する ServerView Agents の版数によって使用するモジュールが異なります。

以下の表に従ってインストールしてください。

ServerView Agents V6.31 の場合

OS プラットフォーム	使用する ServerView Agents モジュール
RHEL 5.9、5.10 (for x86)	32bit 版
RHEL 5.9、5.10 (for Intel64)	32bit 版
RHEL 6.4、6.5、6.6 (for x86)	32bit 版
RHEL 6.4、6.5、6.6 (for Intel64)	32bit 版
RHEL 7.0 (for Intel64)	64bit 版
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3、SP4 for AMD64 & Intel64	64bit 版
SUSE Linux Enterprise Server 12、SP1 for AMD64 & Intel64	64bit 版
Citrix XenServer 5.6、5.6 SP2、6.1、6.2 everRun MX 6.1	32bit 版
Oracle Linux 6 Update 4、Update 5	32bit 版
Oracle VM 3.1.1、3.2、3.3	32bit 版

ServerView Agents V7.00 以降の場合

OS プラットフォーム	使用する ServerView Agents モジュール
RHEL 5.9、5.10、5.11 (for x86)	32bit (V7.10 のみ)
RHEL 5.9、5.10、5.11 (for Intel64)	32bit (V7.10 のみ)
RHEL 6.4、6.5、6.6、6.7 (for x86)	32bit 版
RHEL 6.4、6.5、6.6、6.7 (for Intel64)	64bit 版
RHEL 7.0、7.1、7.2 (for Intel64)	64bit 版
Citrix XenServer 5.6、5.6 SP2、6.1、6.2 everRun MX 6.1 (for x86)	32bit 版

Oracle Linux 6 Update 4 、 Update 5 Oracle Linux 7	64bit 版
Oracle VM 3.1.1、 3.2、 3.3	64bit 版

ServerView Installation Manager を使ってインストールを行う場合は、自動的に適切なモジュールがインストールされます。

64bit 版 OS 上で ServerView Operations Manager V7.00、V7.01 と同じシステム上にインストールする場合は、インストールできる版数に制限があります。(5)ServerView Agents for Linux V7.00 以降をインストールする際の留意 をご確認ください。

#### (4) **ServerView Agents for Linux V7.00 以降 をインストールする際の留意**

a) ServerView Agents V7.00 以降は V7.00 以前の ServerView Agents から はアップデートインストールすることができません。

すでに ServerView Agents がインストールされている環境にインストールする場合は、一旦アンインストール後、インストールを行なってください。

また、古い版数によって作成された/var/srvmagt/reports ディレクトリが残っている場合、ディレクトリを削除後、ServerView Agents のインストールを行なってください。

b) 64bit Linux OS 上で ServerView Operations Manager(SVOM) がインストールされていると、64bit 版の ServerView Agents for Linux V7.00、V7.01 をインストールすることが出来ません。

また、ServerView Agents をインストール後、SVOM V7.00、V7.01 をインストールすることも出来ません。

64bit Linux OS 上に SVOMと ServerView Agentsをインストールする必要がある場合は、以下のいずれかの方法でインストールを行なってください。

- SVOM V7.00、V7.01 と 32bit 版 ServerView Agents V6.31 以前を組み合わせる  
インストールする装置をサポートする ServerView Agents V6.31 以前が存在しない場合は使用できません。
- SVOM V7.02 以降と ServerView Agents V7.00、V7.01 を組み合わせる  
この場合、ServerView Agents をインストール後、SVOM をインストールしてください。
- SVOM V7.02 以降と ServerView Agents V7.10 以降を組み合わせる

#### (5) **PRIMECLUSTER 使用時の留意**

本 DVD に格納されている ServerView Agents は、ServerView IPMI ドライバを同梱していません。このため、本 DVD に格納されている ServerView Agentsを使用すると、ServerView IPMIドライバを必要とする下記の PRIMECLUSTER 製品の一部の機能が使用できなくなります。この場合、これら PRIMECLUSTER 製品に下記のパッチを適用する必要があります。

##### <PRIMECLUSTER 製品>

PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.2A30  
PRIMECLUSTER HA Server 4.2A30  
PRIMECLUSTER Clustering Base 4.2A30  
PRIMECLUSTER Lite Pack 4.2A30

PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.3A00  
PRIMECLUSTER HA Server 4.3A00  
PRIMECLUSTER Clustering Base 4.3A00  
PRIMECLUSTER Lite Pack 4.3A00

##### <PRIMECLUSTER 製品のパッチ>

PRIMECLUSTER 4.2A30

- RHEL5(for x86) : T001213LP-06 以降
- RHEL5(for Intel64): T001253LP-06 以降

#### PRIMECLUSTER 4.3A00

- RHEL5(for x86) : T005220LP-02 以降
- RHEL5(for Intel64): T005245LP-02 以降

PRIMECLUSTER 製品情報につきましては、以下の URL を確認してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/primecluster/>

パッチの入手方法など詳細に関しましては、当社サポート窓口にお問い合わせください。

#### (6) **Red Hat Enterprise Linux 6.5(RHEL 6.5) 上で使用する際の留意**

ServerView Agents を RHEL6.5 上で使用する際に openssl-1.0.1e-16.el6\_5.7.i686 以降のインストールが必要です。なお、ServerView Agents のインストール後に openssl のアップデートを行った場合、openssl ライブラリへのリンクの再設定が必要となる場合があります。詳細については「ServerView Agents 補足情報」をご参照ください。

#### (7) **System Monitor について**

ServerView Agents V7.01、V7.10 をインストールすると 2 種類の System Monitor がインストールされます。1 つは従来の ServerView Agents に含まれていた Java を使用する System Monitor (以下 Java 版 System Monitor) です。

もう一つは ServerView Agents V7.01 から追加された Web ブラウザを使用する System Monitor (以下 Web 版 System Monitor) です。

Web 版 System Monitor を使用する場合は、Web ブラウザ上で以下の URL にアクセスしてください。

<https://<ServerView Agents がインストールされているサーバの URL>:3172/ssm/desktop/>

Web 版 System Monitor は Web ブラウザを使用してリモートでアクセスが可能です。

サポートするブラウザは版数によって異なります。

V7.01 : ServerView Agents がインストールされた Linux システムが標準で使用可能なブラウザまたは、リモートシステム上の Internet Explorer 11 (IE11) 以降です。

V7.10 以降 : ServerView Agents がインストールされた Linux システムが標準で使用可能なブラウザまたは、リモートシステム上の Internet Explorer 8 (IE8) 以降です。

ServerView Agents V7.20 以降は Web 版 System Monitor のみがインストールされます。

## (8) マニュアルの正誤

ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されている、以下のマニュアルの記載に誤りがあります。

1) マニュアル名: sv-install-linux-agent-jp.pdf (ServerView Agents 7.10 for Linux)

ページ: 39

誤

```
2. マウントポイントへのパスを.repo ファイルに設定します。  
# sed -i 's,<mount point>,mnt/img,¥/etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

正

```
2. マウントポイントへのパスを.repo ファイルに設定します。  
# sed -i 's,<INSERT_MOUNT_POINT_HERE>,mnt/img,' /etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

ページ: 39

誤

```
4. .repo ファイルで GPG キーを primergy-dup パッケージからコメントアウトを外します。  
# sed -i '/gpgkey=file.*/s/^# //' /etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

正

```
4. .repo ファイルで GPG キーを primergy-dup パッケージからコメントアウトを外します。  
# sed -i '/gpgkey = file.*/s/^# //' /etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

ページ: 39

誤

```
6. リポジトリをもう一度無効にします。  
# sed -i '/enabled/s/=yes/=no/'  
/etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

正

```
6. リポジトリをもう一度無効にします。  
# sed -i '/enabled/s/= yes/= no/' /etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

ページ: 46

誤

```
4. 次のコマンドを入力します。  
srvmagtDVD.sh [-R] [--ssm install | not-install]
```

正

4. 次のコマンドを入力します。

```
./srvmagtDVD.sh [-R] [--ssm install | not-install]
```

ページ:46

誤

### 3.2.2 ディレクトリからのインストール

ServerView エージェントのシェルアーカイブ `srvmagt.sh` と RPM パッケージを含む ZIP ファイルを Fujitsu Technology Solutions Web サーバの任意のディレクトリからダウンロードできます。

...

正

### 3.2.2 ディレクトリからのインストール

注意事項:

日本市場でお使いの場合は、下記 富士通のダウンロードサイトより、ServerView エージェントをダウンロードすることができます。

「FUJITSU Server PRIMERGY ダウンロード」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

「PRIMEQUEST > ダウンロード」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/download/>

ページ:46

誤

6. 次のコマンドを入力します。

```
./sh srvmagt.sh [オプション] install
```

正

6. 次のコマンドを入力します。

```
./srvmagt.sh [オプション] install
```

2) マニュアル名: `sv-asm-overview-jp.pdf` (ServerView Agentless Management)

ページ:24

誤

サービスの開始

以下のコマンドでサービスを開始します。

```
/usr/sbin/svas start
```

サービスの停止

以下のコマンドでサービスを停止します。

```
/usr/sbin/svas stop
```

正

サービスの開始

以下のコマンドでサービスを開始します。

```
/etc/init.d/svas start
```

サービスの停止

以下のコマンドでサービスを停止します。

```
/etc/init.d/svas stop
```

### 6.3 ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

#### (1) 複数のストレージが接続されている場合はインストールが正しく行えない場合があります。

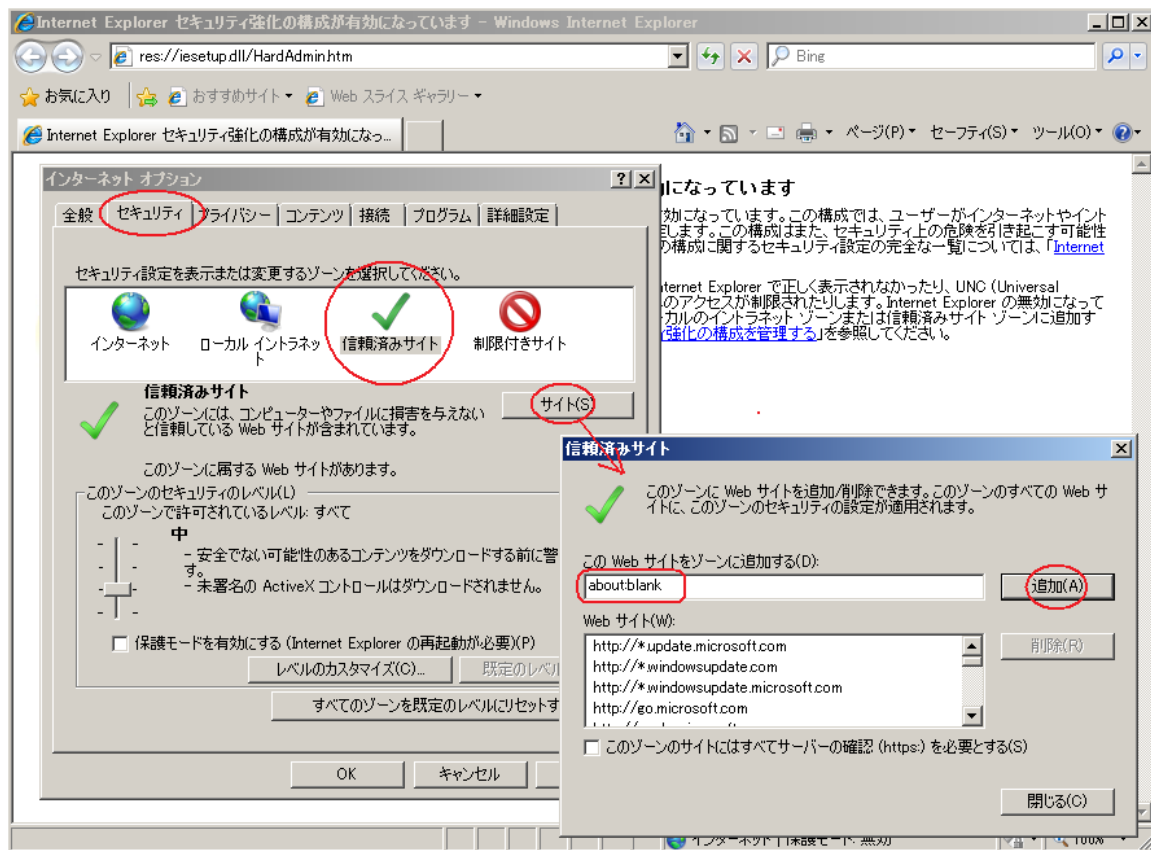
インストールターゲット以外のストレージを外すことでインストールを正しく行えます。

- SAN ブート環境を構築する場合は、ターゲット以外の LUN を外してください。
- SAN ブート環境を構築する場合は、内蔵ハードディスクを外してください。
- 複数の RAID グループが設定されている環境では、インストール時に1つの RAID グループが認識されるように設定してください。

#### (2) リモートインストールを行う場合において、「アプリケーションウィザード」画面の GUI 操作が行えなくなることがあります。

インターネットエクスプローラー (IE) のセキュリティ設定で問題を回避することができます。以下の操作を実施してください。

1. IE を起動します。
2. 「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブを開きます。
3. 「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンをクリックすると「サイト登録ダイアログ」が表示されます。
4. 「この Web サイトをゾーンに追加する(D):」のテキストボックスに[about:blank]と入力します。
5. 「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする(S)」がチェックされている場合は外します。
6. 「追加」ボタンをクリックします。





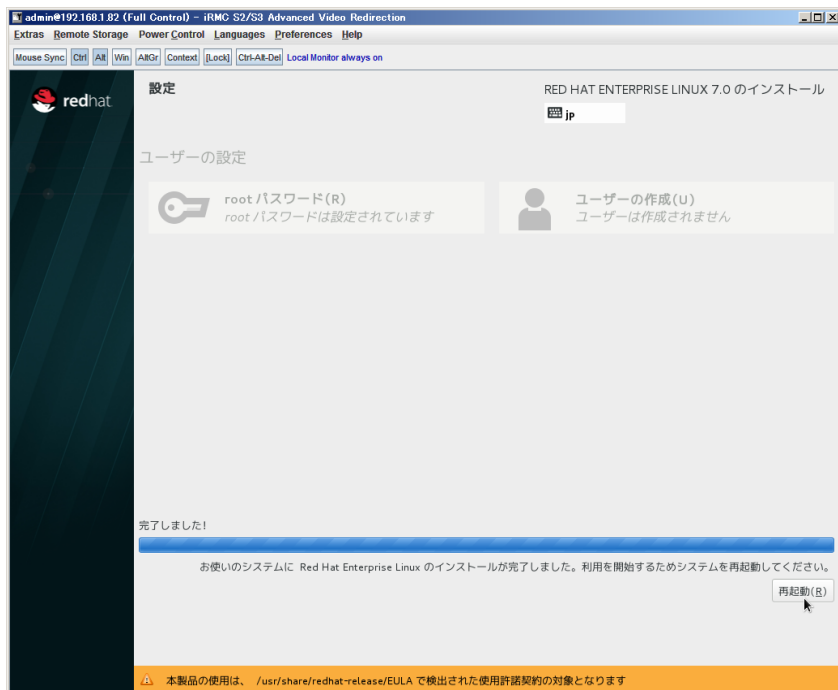
### (3) Red Hat Enterprise Linux 6/7 をインストール時のディスク抜き取りについて

Red Hat Enterprise Linux6 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクが排出されません。

ディスクを抜き取るには再起動ボタンをクリックし、画面が切り替わったところで DVD ドライブの Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。



Red Hat Enterprise Linux7 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクが排出しないください。I/O エラーが発生し、インストールが正常に完了しません。



再起動ボタンをクリックし、再起動が開始されてから Fujitsu ロゴが表示されている間までに DVD ドライブの Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。

(4) **Red Hat Enterprise Linux 6 インストールにおいて、インタラクティブモードを実施する場合の注意**

Red Hat Enterprise Linux 6 インストールにおいて、「基本設定」画面でインタラクティブモードにチェックした場合は注意が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 のインストールを進めていくと、カスタムレイアウト設定画面となります。カスタムレイアウト設定画面表示直後に「リセット」ボタンをクリックしてください。

(5) **CX250 S2, CX270 S2 に IB HCA カードを搭載する場合は注意が必要です。**

CX250 S2, CX270 S2 に IB HCA カードを搭載し SVIM にて OS をインストールすると、途中のドライバ適用フェーズで処理がフリーズします。

OS インストール前に IB HCA カードを外し、OS インストール後 IB HCA カードを搭載してください。さらにドライバを手動で適用してください。

この留意事項は以下の IB HCA カードが該当します。

PY-HC301	IB HCA カード(56Gbps)
PYBHC301	IB HCA カード(56Gbps)
PY-HC302	Dual port IB HCA カード(56Gbps)
PYBHC302	Dual port IB HCA カード(56Gbps)

これら以外の IB HCA カードであれば問題なく OS インストールは行えます。

(6) **RedHat Enterprise Linux をマルチパス構成でインストールする場合の注意**

RedHat Enterprise Linux 5 または 6 でマルチパス構成かつ、内蔵ハードディスクが存在する場合は、「ブートローダ」画面にいて「ブートローダのインストール場所:」項目に「ブートパーティションの最初のセクター」を選択してください。「MBR」を選択すると OS 起動時にエラーが発生しインストールが正常に終了しません。また、内蔵ハードディスクがない場合であれば「MBR」を選択しても問題ありません。

また、RedHat Enterprise Linux 7 についてはマルチパス構成でインストールが行えません。

シングルパスでインストールを実施した後、マルチパス構成の接続にしてください。

(7) **iSCSI ターゲットへのLinuxインストールの制限**

ServerView Installation Manager を使用した Red Hat Enterprise Linux の iSCSI ターゲットへのインストールは、以下のオペレーティングシステムをサポートしています。

- RHEL 6.5 (Red Hat Enterprise Linux 6 Update 5)
- RHEL 6.6 (Red Hat Enterprise Linux 6 Update 6)
- RHEL 7.0 (Red Hat Enterprise Linux 7)
- RHEL 7.1 (Red Hat Enterprise Linux 7 Update 1)

(8) **Red Hat Enterprise Linux 7 における UEFI Secure Boot は SVIM でサポートしていません**

BIOS 設定で UEFI Secure Boot を Enable に設定すると SVIM ではインストールすることができません。

必ず Disable に設定してからインストールを実施してください。なお、デフォルト状態では Disable に設定されています。

(9) **Windows Server 2008 R2 にインストールされる .NET Framework**

Windows Server 2008 R2 をインストールする際、.NET Framework 3.5.1 もインストールされます。

(10) **SVOM for Linux をインストールした後に必要な操作**

SVIM で SVOM for Linux をインストールする場合は、RHEL OS のインストールが完了した後に、次の手順を実施してください。この手順を省略すると、SVOM は起動しません。

- 1) 端末ウィンドウをスーパーユーザ権限で開きます。
- 2) 端末ウィンドウから次のコマンドを入力します。

```
# ldapmodify -H ldap://localhost:1473 -D "uid=admin,ou=system" -x -w "admin" -a -c -f
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/svcommon/files/SVApacheDS.ldif 1>/dev/null 2>&1
# sv_services restart -withTomee
```

- 3) 端末ウィンドウを閉じます。

#### (11) エクスプレスインストールの制限

Windows Server 2008 x86 に対するエクスプレスインストールは使用できません。

- Windows Server 2008 x86 をインストールする場合は、標準インストールを使用してください。なお、iRMC 機能を有していない機種に標準インストールを使用する場合は、インストール中の設定を保存するために USB メモリが必要となります。
- Windows Server 2008 x86 のエクスプレスインストールを使用する場合は、SVIM 11.15.12 を使用してください。

エクスプレスインストールの詳細については、『ServerView Installation Manager 取扱い説明書』をご覧ください。

#### (12) SUSE Linux Enterprise Server のサポート対象

SUSE Linux Enterprise Server をインストールする際の言語指定は、英語のみサポートします。

また、次の製品のみ SUSE Linux Enterprise Server をサポートします。それ以外の製品はインストール時に指定しないでください。

- ServerView Agents
- ServerView Agentless Service
- ServerView RAID Manager

#### (13) RX1330 M2、TX1320 M2、TX1330 M2 に Windows Server 2008 R2 をインストールする場合

RX1330 M2、TX1320 M2、TX1330 M2 への OS インストールの場合に、OS の選択画面において Windows Server 2008 R2 がサポート対象外として表示されます。正しくはサポート対象ですので、インストールしてご使用になれます。

ただし、エクスプレスインストールを使用してください。標準インストールを使用されますと、USB 機器が OS に認識されずインストールを継続できません。

## 6.4 ServerView Update Manager Express の留意事項

(1) ご利用の際は、「ServerView Suite Update DVD」のイメージを当社ホームページから入手してください。

Update Manager Express は、V11.12.10 以降の ServerView Suite DVD 1 には含まれておりません。当社ホームページで公開している「ServerView Suite Update DVD」の ISO イメージ、または「ServerView Suite Update DVD Base」より作成した USB メモリに含まれておりますので、以下の手順でダウンロードしてください。

### ①事前準備

以下の「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」より、ダウンロードファイルを手入してください。

<http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目のみ選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- ・製品名: [ご利用の機種を選択]
- ・型名: [ご利用機種の型名を選択]
- ・OS: [ご利用のOS名を選択]
- ・添付ソフト/ドライバ名称: ["Update DVD" または "Update DVD Base" を入力]

### ②ファイルのダウンロード

Update DVD の ISO イメージファイル、および、Update DVD Base モジュールファイルは、ファイルサイズの制約上「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」のリンクからは直接ダウンロードできません。「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」にて入手したダウンロードファイルの中の Readme.txt に記載されている URL より、ファイルをダウンロードしてください。

## 6.5 ServerView Deployment Manager (SVDM) の留意事項

### (1) SVDM の入手方法について

ServerView Deployment Manager は V11.14.07 以降の ServerView Suite DVD には含まれておりません。ご使用になる場合は、以下の「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」よりダウンロードを行ってください。

<http://www.frnworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目のみ選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- ・製品名:[ご利用の機種を選択]
- ・型名:[ご利用機種の型名を選択]
- ・OS:[ご利用のOS名を選択]
- ・添付ソフト/ドライバ名称:["Deployment"を入力]

### (2) 留意事項について

ServerView Deployment Manager の Readme.htm、補足情報に制限、留意事項が記載されておりますので、ご使用になる前にそちらをご確認ください。

## 6.6 ServerView Virtual-IO Manager (VIOM) の留意事項

### (1) ライセンスおよび製品サポート

- ・Virtual-IO Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。
- ・Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。

### (2) ServerView Virtual-IO Manager V3.7 のサポート状況

- ・コンバージドスイッチブレード (10Gbps 18/6+6) [VDX 2730]に接続しているコントローラにて FCoE を使用することはできません。
- ・管理対象サーバとして RX4770 M3 は未サポートです。

### (3) 留意事項について

Virtual-IO Manager の補足情報とリリースノートに、その他の制限、留意事項が記載されておりますので、ご使用になる前にそちらをご確認ください。

## 6.7 リモートマネジメントコントローラ(iRMC)の留意事項

### (1) ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ使用時のブラウザ設定

iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用する場合は、プロキシ経由で接続することができません。ブラウザの設定で、iRMC WebUI への接続はプロキシを使用しないように設定してください。

### (2) サーバブレードにおけるビデオリダイレクション、およびリモートストレージについて

BX900/BX400 ブレードサーバに搭載されるサーバブレードにおいては、リモートマネジメントコントローラアップグレードオプションによるライセンスキーがなくても、iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用することができます。

## 6.8 ServerView RAID Manager の留意事項

### (1) JRE のサポートバージョン

- JRE (Java Runtime Environment) 7 を使用する場合は update6 以降、JRE8 を使用する場合は update20 以降をご使用ください。
- JRE 6 と JRE 7、または JRE 5 と JRE 7 が混在する環境のブラウザからは接続することはできません(未サポート)。

Windows の場合:

ServerView RAID Manager にブラウザ接続する環境で JRE が混在している場合は、一方をアンインストールしてください。

なお、ServerView RAID Manager にブラウザ接続する環境で ServerView Operations Manager も動作している場合は、6.1 ServerView Operations Manager の留意事項も合わせてご確認ください。

Linux の場合:

JRE の混在が避けられない場合は、別途監視端末を用意して RAID 監視を行ってください。

### (2) Linux で必要なパッケージ

ServerView RAID Manager の動作のためには、以下のパッケージが必要です。

cyrus-sasl, glibc, libstdc++, pam

### (3) SanDisk 製の PCIe SSD を監視する場合

SanDisk(旧 Fusion-io)製の一部の PCIe SSD (型名が PY\*SD\*\*PA2、MC-5JSD11、MC-5JSD21)の監視を行うには、以下の環境が必要です。

- ファームウェア版数:  
「PCIe SSD firmware 7.1.13」以降
- Windows の場合:  
「PCIe SSD Windows Driver 3.2.3」以降
- Red Hat Enterprise Linux の場合:  
「PCIe SSD RHDUP driver package iomemory-vsl 3.2.3」以降 および  
「PCIe-SSD ioDrive2 Linux Utilities 3.2.3」以降  
※ただし、Linux Multiple Devices(LMD)環境は未サポートです。

### (4) アップデートする場合

ServerView RAID Manager をアップデートする場合は、現在ご使用になっているアレイドコントローラのファームウェアも最新にアップデートすることを推奨します。

### (5) ServerView Agents と同時に使用する場合

ServerView Agents と同時に使用する場合は、ServerView Agents v6.20.08 (Linux)以降、v6.20.04 (Windows)以降の使用を推奨します。これより前の版数を使用する場合、まれに Segmentation fault が発生したり ServerView RAID Manager が検出したイベントが SEL に反映されない場合があります。その場合、ServerView RAID Manager が検出したイベントについては OS のイベントログまたは ServerView RAID Manager で確認してください。

### (6) インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア/Java キャッシュクリア

ServerView RAID Manager をアップデートまたは新規インストール後、ServerView RAID Manager の画面を起動する前に必ず WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。また、新しい証明書を入れる前に古い証明書を削除してください。

詳細は補足情報をご参照ください。

### (7) アレイド構成の管理

アレイド構成を使用する場合は、ServerView RAID Manager をインストールしアレイドの監視を行ってください。

新規インストール、アップデートインストール後のサーバの再起動は不要です。

**(8) 再インストールまたはアップデート後のイベント重複**

ServerView RAID Manager の再インストールやアップデートを行った場合、過去のイベントが重複して出力されることがあります。重複して出力されたイベントは無視してください。

**(9) ESXi ホストを多数(数十台以上)登録する場合**

ServerView RAID Manager に ESXi ホストを多数(数十台以上)登録するとサービス起動後の初期化に時間がかかる(数時間以上)場合があります。

よって、サービス起動後は十分時間をおいてからログインするか複数の ServerView RAID Manager にて ESXi ホストの台数を適宜分割することを推奨します。

**(10) ServerView RAID Manager(GUI)の再表示**

ServerView RAID Manager を再表示する場合は、表示していたブラウザのウィンドウを一旦閉じてから、再度ブラウザを開いて表示するようにしてください。

再表示するまでの間隔が短いと、メッセージが表示されてログイン画面が表示されない場合があります。その場合は、ウィンドウを一旦閉じ、しばらく待ってから再度表示するようにしてください。

**(11) Windows で LDAP を使用している場合**

稀にログインができなくなる場合があります。2～3 分程度時間を置くか、ServerView RAID Manager 上の LDAP 設定を解除してから再度接続してください。

**(12) ID 10078 のイベントの重要度表示**

ServerView RAID Manager が通知する SNMP トラップメッセージの重要度(Severity)について、GUI のイベントウィンドウに表示されるメッセージの重要度より低い値で表示されます。以下のように読み替えて頂くようお願いいたします。

ID 10078: SNMP トラップ(マニュアル記載値)の重要度:

読み替え前: Minor → 読み替え後: Major

対象のメッセージの例:

ID 10078 FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1): Logical drive 0 degraded



## 6.9 PrimeCollect の留意事項

### (1) PrimeCollect が実行可能な環境について

本ソフトウェアを既存の OS 上から実行する(オンラインモード)ためには、Windows OS もしくは、ServerView Agents がインストールされた Linux OS 上である必要があります。

ServerView Agents がインストールされていない Linux OS や VMware ESXi サーバ等の ServerView Agents がインストールできない OS 上では本ソフトウェアを実行することはできません。

ServerView Suite DVD から起動し、Maintenance Mode から実行する(オフラインモード)ことは可能です。

## 6.10 Scripting Toolkit の留意事項

### (1) 本ソフトウェアのサポートについて

本ソフトウェアにつきましては現在未サポートとなっておりますのでご了承ください。

## 6.11 ServerView Update Agent の留意事項

### (1) Windows Small Business Server 2011 Essentials でのアップデート管理について

Windows Small Business Server 2011 をインストールしたサーバに対し、Update Manager を使用してアップデート管理を行う場合は、後述の方法により Update Agent をインストールしてください。

※Update Agent が SVIM により既にサーバにインストールされている場合、Update Agent の再インストールを行い、インストーラ上で設定し直す必要があります。アンインストールは、Windows のコントロールパネルの「プログラムのアンインストール」から Update Agent を選択して実施してください。

#### 1. Update Agent のインストーラを実行してください。

「取扱説明書 ServerView Update Management」の「4.1 管理対象サーバへのインストール」に記載されている「Windows でのインストール」の項を参照し、次項の画面が出るまでインストール作業を進めてください。

取扱説明書については、以下の URL からご参照ください。

<http://manuals.ts.fujitsu.com/>

“Software”→“ServerView Suite”→“Update Management”の順に選択し、“タイトル: ServerView Update Management、サブタイトル: ServerView Operations Manager x.xx”を選択してください。(x.xx は Operations Manager のその時点における最新の版数を示します)

#### 2. インストーラの「ServerView アップデートセキュリティ設定」画面で、以下のように入力してください。

- ・「アカウントチェック」欄のチェックボックスを選択状態にしてください。
- ・「アップデート用ユーザグループ」欄に「Administrators」と入力してください。



#### 3. インストール作業の再開

取扱説明書に従って、インストール作業を再開し、インストールを完了させてください。

この後、Update Manager 上で当該サーバのアップデート管理を行う際に、サーバの「管理者」のアカウントを使用して Update Manager 上で「ログオン」作業を行ってください。「ログオン」作業についての詳細は、「取扱説明書 ServerView Update Management」の「7.1.3 サーバへのログオン」をご参照ください。

## 6.12 ServerView Status Monitor の留意事項

### (1) Fujitsu Software ServerView Status アプリケーションのサポートについて

本ソフトウェアにつきましては現在未サポートとなっておりますのでご了承ください。

## 6.13 定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知を行う方法の留意事項

### (1) Windows Server 2012 を使用する場合

Windows Server 2012 において交換予告／交換時期通知を行う方法は、Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008 での方法と同じになります。マニュアルの「1 Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008 での設定例」にしたがって設定してください。

## 6.14 Java に関する留意事項

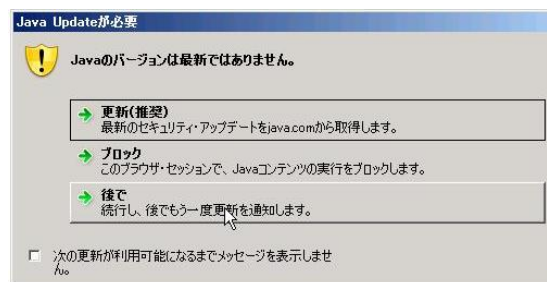
### (1) SVOM に必要な Java コントロール・パネルの設定

以下のドキュメントに SVOM に必要な Java に関する設定、確認が記載されています。  
必要な設定についてご確認ください。

「ServerView Operations Manager のインストールガイド (Windows 版/Linux 版)」  
インストールチェックリスト - Java Runtime Environment (JRE)

### (2) 「Java Update が必要」というメッセージ(「Java のバージョンが最新ではありません。」または「お使いの Java バージョンは安全ではありません。」)の対処について。

Java 7 Update 10 (7u10)以降や Java8 には、使用している Java のバージョンが最新ではないか、または既知のセキュリティ脆弱性がある場合に、掲記のメッセージが表示されます(下図を参照)。



インターネットに接続された環境でお使いの場合は「更新(推奨)」を選択してアップデートを実施してください。

尚、環境内に SVOM がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に、本書 6.1(6)項"JRE をアップデート、アンインストールする際の留意" を併せて参照願います。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、「後で」を選択してください。

SVIM をご使用の際に「OS 選択」画面において、「サーバ管理の設定を行う」をチェックしたときにこのメッセージが表示されることがあります。SVIM 操作中は Java コントロール・パネルを表示できませんので、「サーバ管理の設定を行う」のチェックを外してインストールを進めてください。

### (3) Java7U25 以降で、SVOM・SVRAID 画面が表示されない場合の対処について。

Java 7 U25(7u25)以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet(SVOM、SVRAID など)の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処を行うことで Java Applet を実行することができます。

以下のいずれかの対処を行ってください。

対処 1)

Java 7 の最新版にアップデートしてください。

尚、環境内に SVOM がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に、本書 6.1(6)項"JRE をアップデート、アンインストールする際の留意" を併せて参照願います。

対処 2)

1. Java コントロール・パネルを開きます。

・Windows の場合

- ① Windows のコントロール・パネルを開きます。
- ② 表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

・Linux の場合

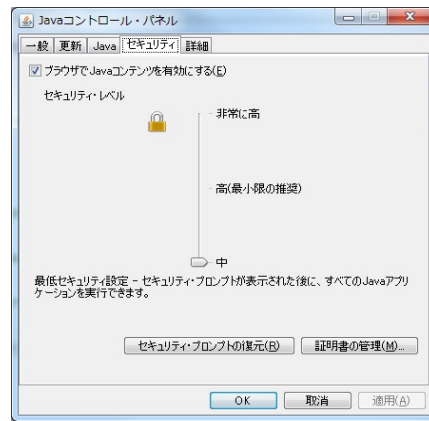
- ① コマンドライン端末を起動します。
- ② 以下のコマンドを実行します。

`/usr/java/<jre のバージョン>/bin/ControlPanel`

注意) Jre のバージョンは Java の版数によって異なります。

Java7 U25 の例: `/usr/java/jre1.7.0_25/bin/ControlPanel`

2. セキュリティタブのセキュリティ・レベルを「中」にし、「適用」をクリックします。



尚、インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、掲記の対処 1/対処 2に加え、以下の設定も合わせて実施してください。

1. Java コントロール・パネルを開きます。

・Windows の場合

- ① Windows のコントロール・パネルを開きます。
- ② 表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

・Linux の場合

- ① コマンドライン端末を起動します。
- ② 以下のコマンドを実行します。

`/usr/java/<jre のバージョン>/bin/ControlPanel`

注意) Jre のバージョンは Java の版数によって異なります。

Java7 U25 の例: `/usr/java/jre1.7.0_25/bin/ControlPanel`

2. 詳細タブの”証明書失効チェックを実行”で「チェックしない(非推奨)」を選択し、「OK」をクリックします。

(4) サポート版数表記について

本留意事項、ServerView 各製品のマニュアルや Readme ドキュメントに記載されている Java 版数について、以下ご留意ください。

「以降」と記載がある際はアップデート版数を指しています。

メジャーバージョン版数ではありません。以下に例を記載いたします。

例) Java 7 U25(7u25)以降 → Java 7 U51 など (※1)

JRE V1.6.0\_21 以降 → JRE V1.6.0\_36 など (※2)

※1 Java 8 を指しているわけではありません。

※2 JRE V1.7 を指しているわけではありません

またサポート対象となるアップデート版数であったとしても、最新のアップデート版数で動作を保証するものではありません。

ご了承ください。

(5) 有効期限について

本 DVD に格納されている Java の有効期限は 2016 年 1 月 19 日です。Java サイトから最新版(\*)をダウンロードし、更新をお願いします。

\*: Java 7 の場合は Java 7 Update 79

Java 8 の場合はダウンロード時点での最新版

## 6.15 ServerView Storage Manager についての留意事項

### (1) ETERNUS DX / DX S2 を監視する場合

ETERNUS DX / DX S2 を監視する場合、ServerView Storage Manager V5.0.0.7 以降をご使用ください。

### (2) ETERNUS DX S3 を監視する場合

ETERNUS DX S3 を監視する場合、ServerView Storage Manager V5.0.1.0 以降をご使用ください。

また、ETERNUS DX S3 用ファームウェア V10L20 の適用が必要です。

ETERNUS DX S3 用ファームウェアについては以下のページにてご確認ください。

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/download/#firmware>



#### ■著作権および商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat、Red Hat Enterprise Linux、Shadowman ロゴ、JBoss は米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。

Linux は米国及びその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。

SUSE および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2016

以上